

本部の全くテクノクラムは業務再開路線！

日刊
動労千葉

80.7.20
No. 59 全国版

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
(鉄電)二三五八九九・(公衆)〇四三(22)七三〇七

「再建地本一支部」元々手上げに失敗し、いよいよ追いつめられた「本部」

動労「本部」反動分子による六・二八、七・五と二度にわたる「再建支部一地本」デッチ上げ策動は、動労千葉の総決起による糾弾・説得・追及行動と彼ら内部の動搖と分裂一不統一によつて完全に失敗しました。そして、今度は、八月全国大会までになんがなんでも「再建」しようとして、動搖する裏切り分子をなんとかかこい込むために、「津田沼と佐倉で業務再開」などといいだしています。

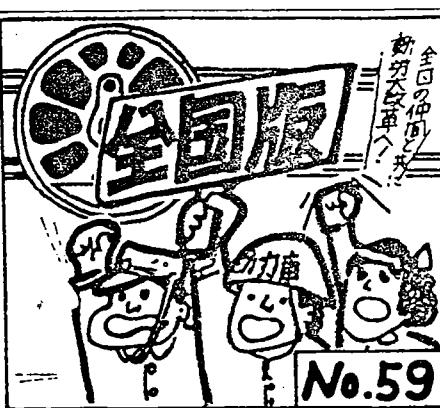
しかし、この「業務再開」なるものは、全くデータラメで、ペテン的なサギ行為に他なりません。

唯一正當な手続きで選出された動労千葉・支部執行部！

—◎「業務再開一本部派支部」のペテンとデータラメについて —

津田沼においても、佐倉と同様、「業務再開」を叫んでいます。

しかし、こうしたデータラメな「再建」策動がただちに職場における大衆的な反撃によつて、大きく動搖しつつあることも事実です。



No.59

「業務再開」に巻き起る怒りの声！

動労「本部」・三信ビル（津田沼事務所）と結託した土屋（佐倉）、嶋田（津田沼）らは、佐倉が六月九日に八十四名で、津田沼が六月十六日に十七名で「業務再開」したといつています。

しかし、彼らのいう「本部派支部の業務再開」は、規約・規則を無視した全くデータラメなのです。すなわち、佐倉支部の場合、堀口支部長以下の現執行部は、昨年十一月十六日、山下庄一郎前支部長の名をもつて召集された一九七九年度佐倉支部定期大会において正規の手続きをもつて選出され、組織問題の結着は、新執行部に委ねることも併せて決定したのでした。

そして、その後、堀口新執行部は、オルグ・職場集会などを実施し、本年三月三十日開催された臨時大会・結成大会において動労千葉に召集することが決定され、対当局交渉、支部業務の遂行など一貫して、組合員の先頭で闘つているのです。自ら執行部を下り、一組合員となつた者に、「業務再開」など出来るはずがないのです。土屋一味のいう「業務再開一本部派支部」が全く繼承性も正当性もないデッチ上げにもとづくまぼろしの「組織」であることは、もはや明らかです。

動労「本部派」をめざした「再建」策動が動労千葉の総決起によつて彼ら内部の動搖と反発、内部分裂一不統一をもたらし、完全に失敗したことによつて、ついに、「業務再開」なる全くデータラメなサギ師まがいのペテンをろうし、悪あがきをはじめたのです。

このように、「本部」反動分子は、あせりにかられて「業務再開」を「宣言」したもののが多くの組合員から怒りの声がわき起り、やつとデッチ上げた「組織」そのものがグラグラとなつています。

全国の動労組合員の皆さん！

動労千葉解体のみを目的とした「再建地本一支部」デッチ上げ策動は、いよいよ追いつめられ、破産寸前の状況にあります。

さらに團結を固め、五五・一〇合理化阻止、国鉄三十五万人体制粉碎にむけ断固闘い抜く決意です。